

2018 夏休みおすすめ本 中学生

『理科準備室のヴィーナス』 Y913ト

戸森しるこ/著 講談社

中学1年生の瞳は、小学校のころから同級生の南野さんに嫌われている。人気者の彼女が瞳自身は大好きなのに、ある事件をきっかけに口をきいてもらえなくなった。そんな瞳が出会ったのが不思議な自由さで人を惹きつける人見先生だった。先生は結婚していないのに、子どもがいるというウワサ。瞳はその先生の真似をして髪を伸ばし始めた。そしてもうひとり、先生をみつめる生徒がいて…。甘美なラブストーリー。

『シカゴよりこわい町』 Y933.7ペ

リチャード・ペック/著 斉藤倫子/訳 東京創元社

兄ジョーイと妹メアリは、毎年八月になると祖母のところへ一週間ほど泊まりに行くことになっていました。銃はぶっぱなすし、大ボラはふくし、「おばあちゃんは、わたしたちのいいお手本とは言えない」。しかし、祖母の言動の裏にある独自の正義感にひかれ、二人は祖母のところへ行くのを心待ちにするようになります。

続巻は『シカゴより好きな町』『シカゴよりとんでもない町』。

『いしぶみ 広島二中一年生全滅の記録』 Y210イ

広島テレビ放送/編 ポプラ社

戦時中は、どんな生活をしていたのでしょうか？ この本の日記や記録から当時の様子が伝わってきます。

人々の命や生活を一瞬にして奪ってしまう原爆。日本にも戦争の時代があって、悲しい出来について考えてみましょう。

『明日のひこうき雲』 Y913ヤ

八束澄子/著 ポプラ社

いつも晴れない心を抱える遊。ある日、偶数見かけたサッカー部のキンちゃんが見せた鋭いまなざしに、惹かれていく。ひよんなことから、親友の満里と転校生のあさみ、遊の三人で、サッカー部の押しかけマネージャーになる。恋と友情を育みながら、一步一步成長していく姿を描く物語。

『空色勾玉』 913オ

荻原規子/作 福武書店

輝(てる)の一族と闇(くら)の一族が対立していた世界。輝の一族が治める里で暮らす村娘・狭也(さや)はある日、自身が闇一族の巫女「水の乙女」だと知らされます。輝の一族の王・月代王(つきしろのおうきみ)に救いを求めに行くと、稚羽(ちはや)矢という少年に出会います。二人の出会いがこの世界に変化を与えていきます。

『月にハミング』 Y933モ

マイケル・モーパーゴ/作 杉田七重/訳 小学館

第一次世界大戦のころ。人魚伝説の残るシリー諸島で、言葉を持たないひとりの少女が発見された。海からやってきた少女ルーシー。どこから、どうやってきたのか？豪華客船ルシタニア号が撃沈されたという史実をベースにした戦争の悲劇と感動の秘話。



『ふたい』 Fアカ

赤川次郎/著 新潮社

姉の千津子は高校2年生のある日、事故で亡くなった。実加は来年高校1年生になり、もうすぐ亡くなった姉の歳を追い越してしまう。ところが死んだはずの姉の声が、突然、実加の頭の中に聞こえてくる。そして、千津子と実加の奇妙な共同生活が始まった…。